

生活再建のスピードアップを願うから

党派を超えて広がる輪

“今度はわたし「かずえ党」です”



雪がチラつく夜に

相沢太利男さん
(若林若竹町内会会長)

わたしは“保守派”なのですが、今回は「福島かずえ党」です。みなさんにも「かずえ党」を訴えたい。3月11日、道路が凍り、雪もチラつくなか、深夜まで、ひとりで一軒一軒を気づかい回ってくれた人は、なかなかいませんよ。

人間として魅力的

保守系の現職仙台市議

市議会で20年間、ご一緒してきました。かずえさんは、社会正義感と公正さを買ってきた人です。そこに、わたしは、共感してきました。

政党政派を離れて、人間として魅力的な人です。ぜひ、県政でがんばってほしい。

非凡な論戦力を県でも

黒滝 正昭さん
(宮城学院女子大名誉教授)

わたしが福島さんに敬意を抱くのは、議会での彼女の質問が具体的・的確で鋭いこと、その非凡な力で当局から大切な答弁を引き出してきたことです。これが地域の市民運動に力を与えるのでしょうか。努力の賜物と思いません。県レベルでも活躍を期待します。

政策提案が行政を後押し

元仙台市職員

仙台市の将来と市民のために、真剣に政策提言する姿には、立場は違っても評価していました。福島さんの建設的な提案は、行政を後押ししてくれたこともありました。市長には、厳しかったですが、がんばっている市の職員には、やさしかったですね。

3.11ドキュメント

福島かずえの
ブログから



福島かずえブログ
ケータイ用アドレス

3月11日 市議会中に強い地震。若林区災対本部へ情報入手のため直行。住民の安否確認と避難所回り。午後11時52分、闇の中、大量の流木が行く手を阻み、それ以上、進めず。
19日 兵庫県明石市の燃料会社社長が灯油4トンタンクローリーに積み、徹夜で仙台に到着。朝6時過ぎ、案内しながら避難所や福祉施設30カ所に配達。夜8時過ぎ、配達終了。明石へ戻るタンクローリーに手を振りながら、涙止まらず。
共産党が救援物資の配給活動を開始。自ら先頭に立つ。



明石からのタンクローリー

このころ、避難所の七郷小で「煮炊き用のガスボンベがもうなくなる」の訴え。走り回って調達し届ける。

28日 日弁連の宇都宮会長を若林区

の被災地に案内、被災者と懇談。

4月12日 南三陸町へ。「あまりの状況に夜、眠れませんでした。『電柱が立ったとき、希望が見えて嬉しかった』と話した大滝町議（共産党）の言葉に、涙がでました」。女川、石巻へも。

4月16日 避難所の癒しのため、富士山市の共産党市議を通じて、セラピー犬4匹を招く。



セラピー犬と
避難所の人たち

命を救われました

千葉京子さん
(若林4丁目)

夫が透析患者です。地震の翌日、透析日でした。途方に暮れていたら、福島さんは、見ず知らずのわたしたちのために、車で走りまわり、病院をさがしてくれました。人が困っているときに、本気になって動いてくれる。こんな議員さんが、若林にもいたんですね。

全部津波で流されたなか

早坂えみ子さん
(荒浜で被災)

我が家も実家も親戚の家も、全部流されました。福島さんは、人を助ける力をもった、すごい人です。身体をはって生活を支援してくれました。こんな人がいるなんて、知らなかったです。

